

森に集い、森と育つ、左近山団地

豊かな自然と様々なアクティビティでつくる新しい左近山の風景

恵まれた立地特性と豊かな自然を併せ持つ貴重な住環境である左近山団地には、その環境の価値を象徴する建築が必要だと考えました。現在はうまく活用されていない様々な可能性を新しいデザインによって最大限に引き出すことで、新しいアクティビティやコミュニティが日常に溢れだしていき、緑の下に広がるその活き活きとした暮らしの風景が、やがて新しい左近山団地のアイデンティティとなると考えています。

提案 1. 外部空間改善の考え方 みんなで育て、みんなを使う、左近山団地「新マスタープラン」

これからの新しい時代に向けて、若者世代、子育て世代を呼び込み団地全体の活性化を行う必要があります。そのために私たちは新しい何かを作るのではなく、既存環境に価値を見出し、他にはない魅力の創出や可能性を与えることで、出来る限り低コストで効果的な新マスタープランを提案します。それは次に挙げる3つのコンセプトによって構成され、未来に向けてみんなで育て、みんなで使い、みんなが誇りと愛着を持つ持続可能なプランを目指します。このマスタープランをゆくり着実に実現していくことにより、他のどこにもない左近山らしい団地の風景が作り出せると考えています。

左近山団地新マスタープラン 3つのコンセプト

- ①「豊かな自然」をさらに魅力的に変える
- ②「広大で多様な敷地」に価値を与える
- ③敷地内最大の「空き地」を活用する

①「豊かな自然」をさらに魅力的にし、貴重な自然環境と立地特性の価値を高める

A. 植樹計画を見直し、都市の森を目指す

横浜で最も空気のきれいな住環境（エアリーバリアー）を目指し、子育て世帯はもちろんのこと、広い世代に対して魅力的な環境づくりを目指します。

同時に、ゾーンごとに個性のある外構とすることで、様々な場所を作り出し、均質ではない歩いていて楽しくなるような、活き活きとしたランドスケープを目指します。

B. 使われてない広場を使えるように変えていく

道路境界以外の低木をセットバックして視界のひろがりを作り、明るく風通しの良い空間に変えていきます。使われていない様々な広場も使いやすく、コミュニティを生み出す公共空間を増やします。

同時に、様々な空間の目的に合わせて植樹の種類を調整し、専門家も交えて出来るだけ維持管理の容易な計画に変え、それらを実行する照明なども適宜設けることで、効果的なランドスケープの実現を目指します。

C. 新しい森を、みんなで作る

様々な紀年ごに植樹する機会を設けることで、樹木の数が住民の歴史と未来を映す。

住民のみなさんと植樹ワークショップを開催し、少しづつ新しい木を増やしていきたいと考えています。みんなで団地の未来を考える機会を増やし、長く愛される住環境づくりを目指します。

様々なストリートファニチャーのデザインを統一する「デザイン・コード」をみんなで作る。

植樹だけでなく、敷地内に必要な様々なストリートファニチャーのデザインワークショップを開催し、素材から形状まで全体で統一された左近山団地の「デザイン・コード」を作り、みんなで共有することで住人が誇れる美しい住環境を実現します。

②「広大で多様な敷地」に様々なアクティビティをデザインし、新たな価値を与える

都市公園のような広大な敷地面積を持つ左近山団地には様々な場所があり、他にはないその特徴を最大限生かして敷地内に様々なアクティビティをデザインします。何でも無い大きな広場や長い道も、機能を付与することでこれまでにない使い方を生み出し、新たな価値を与えることができると考えています。住民のみなさんと様々なアイデアを出し合いながら、団地内だけでなく近所の住人までこの左近山団地を利用しやすくなる魅力的な公園のようにしていくことで、その環境に暮らすことの価値を高め、必要最小限のコストで既存環境をより魅力的に変えていきたいと考えています。

A. 団地外との接点にもなる「顔」となる空間づくり -「階段広場」と「みんなの家」-

敷地内では外部からのアクセスの良い、団地外との接点となるような場所が2ヶ所あります。その環境を活かし、住人だけでなく誰でも使える、通りがかることのできる憩いの空間を提案します。この階段状の「階段広場」と、大きな「みんなの家」の2つは、日常利用だけでなく、大きなイベントにも対応でき、記憶や思い出に残る活動をサポートします。

B. 豊かな自然や季節の変化を楽しめる交流の場所づくり -「ピクニックテラス」-

敷地内でも特に自然豊かで、日当たりが良く気持ちの良い南向きの斜面には、その魅力をみんなが感じられるように、大小様々なサイズのテラスを設計「ピクニックテラス」と名付けました。季節によって移り変わる自然を満喫し、左近山団地に住むという価値を大きく高められるような空間づくりを目指します。

C. 住民の新たなつながりを生む場所づくり -「クラインガルテン」と「シェアガーデン」-

日当たりが良く住民がアクセスし易い場所に、「クラインガルテン」や「シェアガーデン」を作り、菜園やガーデニング等を通じて新たなコミュニティ形成のきっかけを作るとともに、左近山団地の豊かな自然環境学習にも役立てたいと考えています。また収穫された野菜や果物などを使って収穫祭等の各種イベントも開催することで、新たなまちづくりに住民が積極的に参加できるようにします。

D. 既存の道や芝生広場を魅力的に変える -「みんなの緑側」と「ウォーキングコース」-

各棟に付随する芝生広場の低木配置を見直し、道路との境界部分に「みんなの緑側」と名付けたデッキテラスを設けます。テラスは様々なストリートファニチャーと一体でデザインし、住人のコミュニティを変える魅力的な場とします。また、広大な敷地の歩道の一部に様々な遊歩コースを設定し、これらで遊ぶ広さ、長さを活かした敷地の活用を提案します。

③ 敷地内最大の「空き地」を活用して、団地の未来を支える

敷地内の最も大きな「空き地」であり、活用されていない建物の屋上部分に太陽光発電パネルを設置し、発電された電気を活用することでこれからの左近山団地を支えたいと考えています。もともと左近山の高台に位置し、周囲に南側からの太陽光を遮るものが何もない広大な屋上部分は、太陽光発電の設置場所として最適であると考えています。これを一つのモデルケースとして取組み、広く外部にPRすることでエコ団地としての宣伝効果も期待できます。何より発電により得られる大量の電気をうまく活用したエコで住みやすい団地は新規住人の呼び込み促進にも繋がると考えています。

左近山団地中央地区エリア
敷地面積
約 10.5ha

左近山団地中央地区エリア
屋上敷地面積
約 1.65ha

仮にすべての屋上を太陽光発電に活用した場合の発電のイメージ

搭載容量：約 1460kw
パネル数：約 8600枚
15年で約 6億 2500万円分

※SHARP 製品による計算

間隔も広く、直射光を遮るものがない屋上は太陽光発電に最適であり、広大な面積による発電量を有効に活用することで、大きなメリットを生むと考えています。

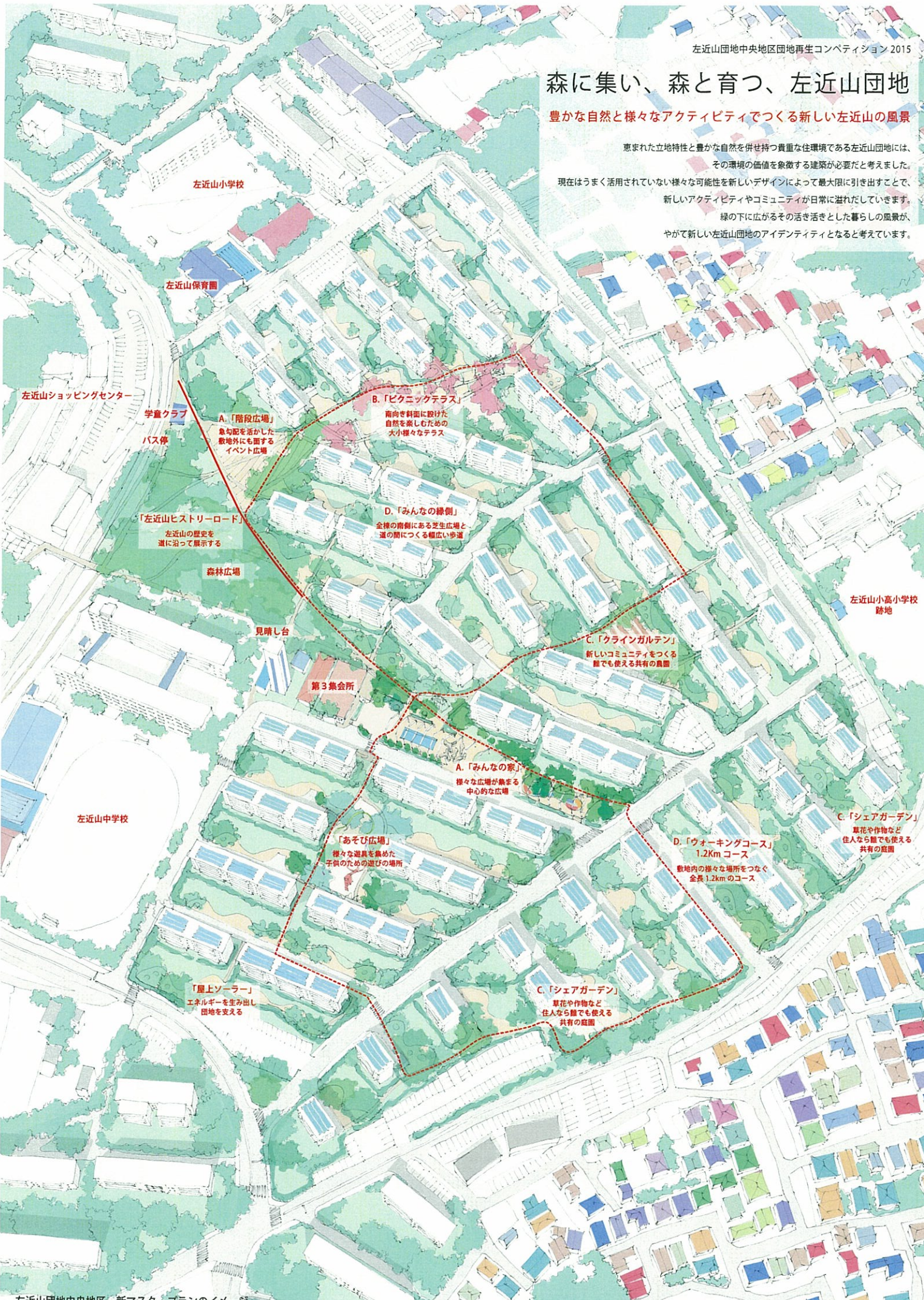
活用案① 「森に住みやすくなる」

発電された電気を各住戸に分配することで、住戸あたりの電気料を抑えることができ、若い世代も入居しやすくなります。

活用案② 「森の管理の手助けする」

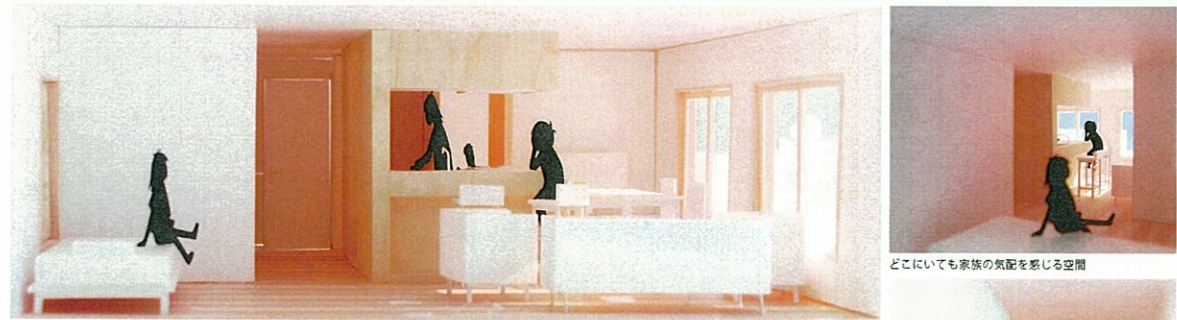
発電された電気を充電することで、共有部、外構の管理・運営費等の財源をつくり、持続可能な環境づくりを目指します。

これらの方法により、新しい世界が左近山団地に住むことのメリットを作り出すことができ、さらに環境配慮型の次世代団地として大きなPR効果も期待できると考えています。

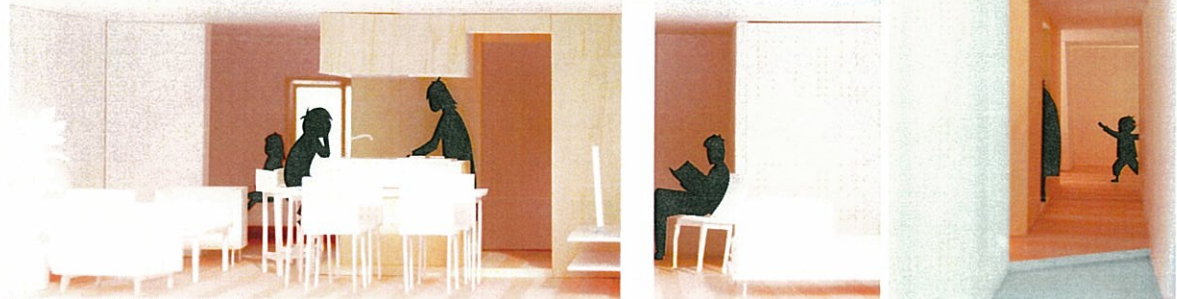


左近山団地中央地区 新マスタープランのイメージ

提案 2. 空き家活用の考え方 安心・安全で家族の変化に柔軟な「子育て世帯プラン」

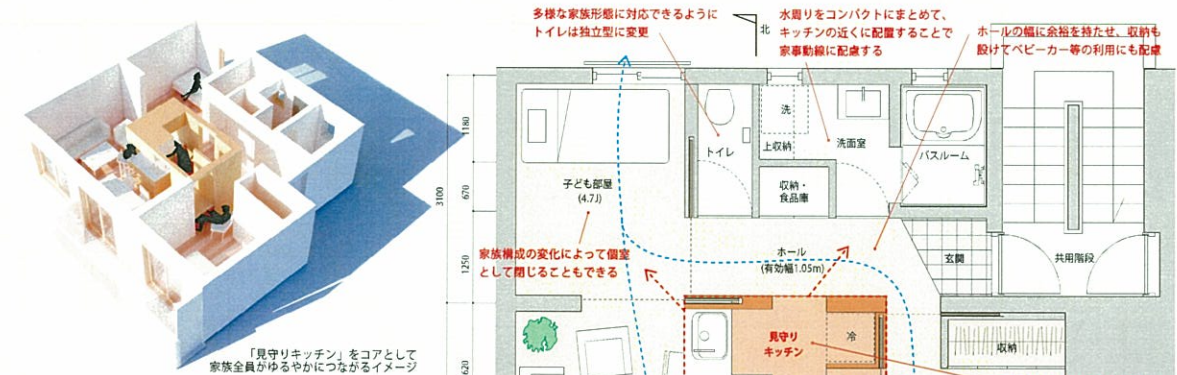


「見守りキッチン」をコアとして各室がつながるイメージ



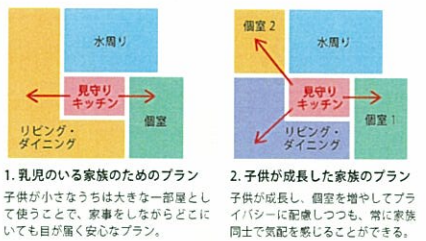
採光・通風に配慮した明るく快適な空間のイメージ

豊かな自然と綺麗な空気に加え、学校や保育園等が近接した素晴らしい環境において、子育て世帯向けの住戸に必要なのは「安心・安全であること」と「将来の変化に対して柔軟であること」だと考えています。そこでシンプルかつ低コストでありながら、合理的で家のどこにも家族の気配を感じられ、出来るだけ長い時間家族が同じ空間を共有できるプランを提案します。豊かな外部環境と合わせて、他のどこにもない素晴らしい子育て環境を実現し、新たな子育て世帯を呼び込むための最適なプランを提案します。



① 家族の変化に対応し 心理的な安心感を生むプラン

家の中心に「見守りキッチン」と名付けたコアを配置し、それを取り巻くように1字型の住空間を作りました。住空間は最大で4部屋に分断することが可能で、すべての部屋は「見守りキッチン」と繋がり、この場所を介して自然とコミュニケーションを生み出します。また玄関周りを広くし、近くに収納も設けることでベビーカー置場等、子育て世帯特有の要望にも対応します。



1. 乳児がいる家族のためのプラン
子供が小さくは大きな部屋として使うことで、家事をしながらどこにも目が届く安心なプラン。

2. 子供が成長した家族のプラン
子供が成長し、個室を増やしてプライベートに配慮しつつも、常に家族同士で気配を感じることが出来る。

3. 子供が増えた家族のプラン
家族が増えた時には、最大で個室を3つまで増やしつつも、キッチンを介して家族のつながりを生み出す。

4. 子供のない家族のプラン
子供のない家族は、L型に長いワンルームとして場所の使い勝手を持ちながらも一体感を持つ住環境となる。

② 自然通風・採光の確保と自然素材の採用により物理的な安心感をつくる

センターコア型のプランとすることで、すべての居室に窓を設けることができ、必要最低限の断熱・自然通風・自然採光によって、換気に頼らなくても快適な住空間を実現します。また現代病である様々なアレルギー等に配慮し、仕上げ材はコストの範囲内で出来る限り自然素材を採用することで、物理的にも安心・安全な住環境を作りたいと考えられています。



提案 3. 1期整備地区の整備計画 様々なアクティビティを可能にする中心的な広場としての「みんなの家」

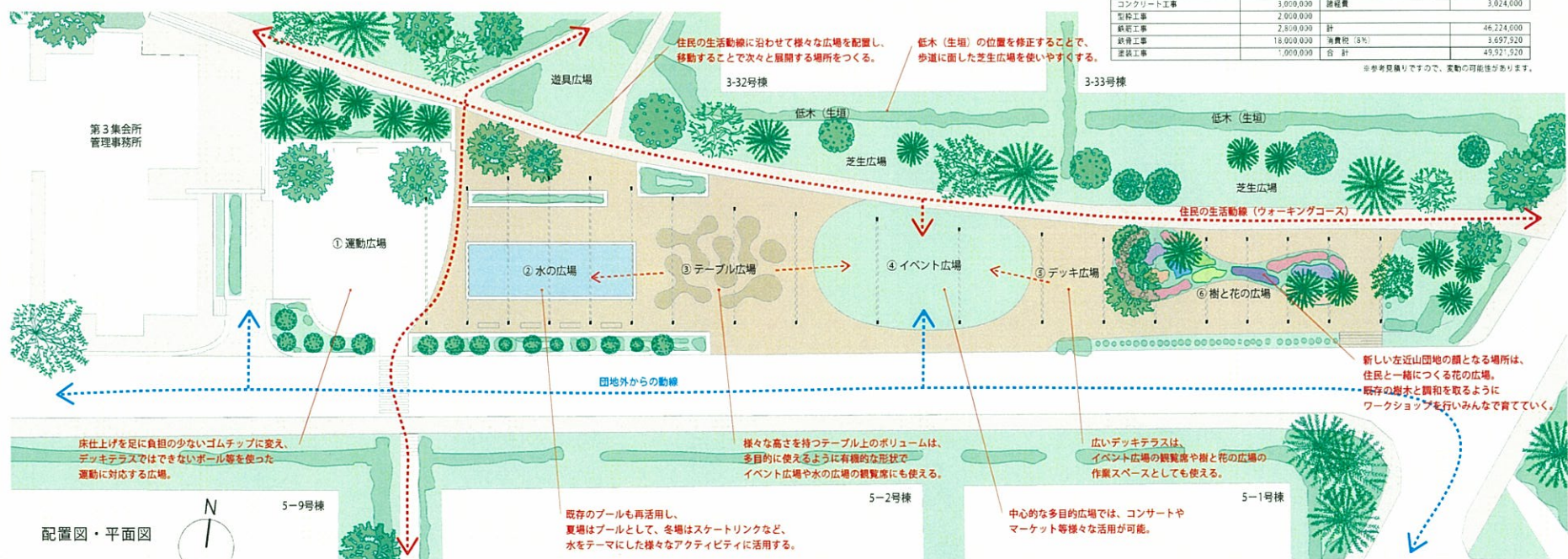


様々なアクティビティを支える「みんなの家」のイメージ



集会所側から見下ろすイメージ

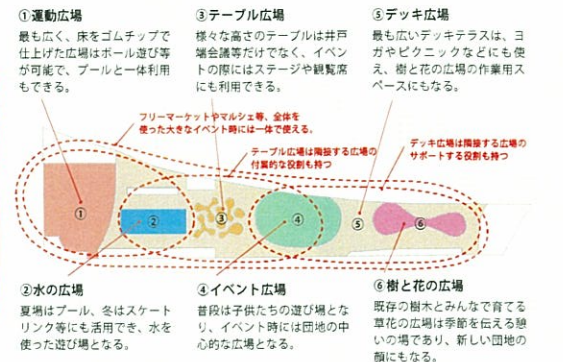
左近山団地中央地区の中心的な場所でありながら、外部からのアクセス性も良い本計画地は、日常的には住人の様々な活動をサポートしながらも、大きなイベント等の際には祝祭空間としても活用できる敷地内でも数少ない空間です。そこで、既存のプールや立派な樹木をすべて残して活用し、リニア状の敷地内にそれぞれ異なる6つの広場を設けました。各広場はそれぞれ個別のアクティビティを想定して計画しつつも、隣接する広場同士は一体でも利用でき、大きなイベント時には全体を一つの空間として使うことも可能な計画としています。また敷地全体には様々なアクティビティをサポートする機能を備えたストリートファニチャーとして、象徴的な家型フレームを各広場に合わせたピッチや幅を変えながら連続配置しています。そこにに行けばいつも誰かがいて、沢山の思い出に残る場所、そういう願いを込めてこの広場を私たちは「みんなの家」と名付けました。



立面図 1/300

① 日常利用から大きなイベントまで 様々な利用に対応可能な6つの広場

「みんなの家」は6つの異なる広場が連続し、子供の遊び場からママさんたちの昇降会議まで、様々な利用が可能な中心的な広場です。また隣接する広場同士は互いに補完するような機能を持つことで、バラバラの6つの広場ではなく、各広場が緩やかに連続しながら、様々な相互作用を生み出すように計画しています。また同時に外部からのアクセスも良い立地のため、周辺地域まで巻き込むような大きなイベントにも対応できるように、全体を大きなデッキ床で統一しました。この左近山団地で暮らす人や県立した人にとって、大切な思い出としてずっと記憶に残るような場所が、これからの団地には必要だと考えています。



② 様々な活動を支える多機能なストリートファニチャーの設置

日常利用からイベント時まで、広場の様々な活動を促進する多機能なストリートファニチャーを広場全体に設置します。家型のこのストリートファニチャーを場所に合わせて幅や間隔を変化させつつも、全体を同じ形状の連続とすることで、ひとつの大きな家のように、人々が自然と集まりやすく親しみやすい空間となるように計画しています。



多機能なストリートファニチャーの機能
・鉄道の駅やイベント場に加えて、季節のイルミネーション等にも対応する
・音響設備を取り付け、各種アンプや緊急時の放送にも活用できる
・日除けテントの設置や緑化のカーテン等の様々な拡張的な利用も対応する

内 訳	金額	内 訳	金額
共通仮設工事	4,350,000	植栽・土木仮設工事	1,450,000
解体仮設工事	3,000,000	電気設備工事	1,300,000
土工工事	3,000,000	外構・舗装工事	3,200,000
コンクリート工事	3,000,000	舗装工事	3,024,000
管工事	2,000,000		
電気工事	2,000,000	計	46,334,000
舗装工事	18,000,000	消費税(5%)	3,657,520
塗装工事	1,000,000	合計	49,991,520